

# 日本人英語学習者による，カタカナ英語の原音認識

## —ア行で始まる語を中心に—

● 中 村 聡

### 1. はじめに

「カタカナ英語」とは，日本語の音韻体系に組み込むために英語から音写された語のことである。英語教育的視点に立てば，カタカナ英語には日本人の英語学習に高い効果を生み出すことが期待できる（Yogi 2001）一方で，カタカナ語としてはよく知っている語を英語の発音で聞いた時に認識できないという問題も生じる（森光・中島 2008）。

森光・中島（2006）は，兵庫県内の公立小学校の3年生から6年生の計139名を対象に2005年に実施した，カタカナ英語に関するアンケート調査に基づき<sup>1</sup>，児童を対象とした英語教育においてカタカナ語を授業に取り入れることの有効性を考察した。調査のひとつとして<sup>2</sup>，当該小学校の日本人英語教師に sport, coffee, bed, white, orange, T-shirt, equal, sausage, bread, water の10の英単語を読み上げてもらい，児童にはそれに対応すると思うカタカナ語を書いてもらった。その結果は次のようにまとめられている。

児童は聞いた音をそのままカタカナ語で表記することが多かったが，英語の発音がそのカタカナ語の発音と近ければ，多くの児童が正しいカタカナ語に置き換えている。逆に，英語の発音とそのカタカナ語の発音に差がある場合，カタカナ語の表記の仕方に幅が出たり，全く別のカタカナ語に置き換えられる傾向がある。（森光・中島 2006: 85）

森光・中島（2006）は，学校での英語学習の初期段階にある小学生が英単語の発音をカタカナ英語とどのように結び付けるかを調べるものであった。それでは，カタカナ英語

1 この小学校では，2002年度より生活科や総合的な学習の時間の中で音声を中心とした英語活動を取り入れ，2005年時点で，1，2年生では隔週15分，年間約5時間の，3年生から6年生までは週1回，年間35時間の英語活動が行われていた。

2 その他の調査内容は，どの程度の児童が学校外で英語を習っているかどうか，どの程度の数のカタカナ語を児童は知っているかを調べることで，教師の読み上げた，カタカナ語を含む日本語文を児童に書き取らせることにより，児童がカタカナ語をどのように表記するのかを調べることであった。

が原音とどのように結び付けられるかを調べれば、どんな結果が得られるだろうか。本研究は、学校での英語学習の終期段階にある大学生を対象にし、この問いに対する答えを探る。

## 2. 仮説

ここまで述べてきたことを踏まえ、本研究では、学校英語教育を長年受けて来た、日本語母語話者である大学生のカタカナ英語の知識と原音の音韻認識との関係を明らかにすることを目的とし、次の仮説を立てる：

カタカナ英語の発音とその原音との差が小さければ、日本人英語学習者は、その原音を正しく認識する程度が大きく、カタカナ英語の発音と原音の差が大きいと、その原音を正しく認識する程度が小さい。

ここでのカタカナ英語と原音との差の大小は、音韻的な相違点をもとに判断するものである<sup>3</sup>。たとえば「アシスタント (assistant)」は、「シ」1字のみを変更して原音の /sɪ/ に相当する「スイ」とすることで原音に近くなり、アクセントの位置もカタカナ表記では第2音節、原音でも第2音節であることから、両者の音韻の差は相対的に小さいと判断する。他方「イコール (equal)」は、アクセントの位置が原音と異なること（カタカナ語では第2音節、原音では第1音節）、「イ」が原音では長母音であること、「コール」が原音の /kwəl/ と異なることから、カタカナ表記と原音との音韻的差は相対的に大きいと判断する。次節では、カタカナ語と原音との音韻的差（以下、「開き度」）に基づいて設問を作成した、日本語を母語とする英語学習者である大学生を回答者とする調査の内容を記す。

## 3. 調査

本節では、前節で立てた仮説を検証するために行った調査の内容を説明する。調査は2021年の11月から12月にかけて、関東にあるA大学の、日本語を母語とする1年次生か

---

3 日本語で表記した英語とその原音を比べる際に、CV（子音＋母音）を基本構造とする日本語の音節とCVCを基本構造とする英語の音節とでは音韻構造が異なるため、隔たりが全然ないということはない。また、音節を目立たせる役割をもつアクセントも、日本語は高低アクセント（pitch accent）、英語は強勢アクセント（stress accent）であり、両言語ではその性格が異なる。

ら4年次生、計51名を対象に対面で実施した<sup>4</sup>。どの学生にも英語関連の授業の前後に回答してもらった。ただし、設問のいくつかに無回答であった1名は分析の対象から除いたため、本研究の実際の分析対象はちょうど50名となった。

調査回答者には、辞書類は一切参照せずに、4つある発音表記の中から原音の発音表記を1つ選んでもらった<sup>5</sup>。正解となる、原音の発音表記は、多くの市販電子辞書に組み込まれ、大学生の多くが使用している『ジーニアス英和辞典 第5版』が見出し語の発音表記として最初に載せているものを用いた。原音を表していない、3つの発音表記は同辞典の発音記号に基づき、筆者が作成した<sup>6</sup>。

ただしアクセント記号は、英和辞典や文部科学省検定済みの中学校・高等学校の英語教科書で一般的に使われている、母音の上に付すものではなく、英英辞典で一般的な、アクセントの置かれる音節の前に付すものを使った。アクセントが2つ以上ある語については、第1アクセントのみを記し、母音が1つのみの語にはアクセント記号は付していない。アクセントに関する以上の説明を調査前に回答者に対して行った。

調査対象とするカタカナ英語は、基本的に『広辞苑 第7版』（以下『広辞苑』）が収録している膨大な数のカタカナ英語のうち、ア行で始まる語に限った<sup>7</sup>。ただし、ア行のみでもカタカナ英語は相当な数であるため、大学生の認知度が高いと考えられるものを、「ア」から始まる語、「イ」から始まる語、「ウ」から始まる語、「エ」から始まる語、「オ」から始まる語の中から10語ずつ選び、計50語を調査対象語とした<sup>8</sup>。さらに各母音別の10語を、開き度が「小」の3語、「大」の3語、両者の間の「中」の4語に分けた。

次の表は、調査対象のカタカナ英語50語を、正答・不正答選択肢と選択肢作成の意図（開き度の判断基準を兼ねる）と共に記したものである。開き度「小」の全15語は太字、開き度「大」の全15語は網かけにし、「中」の全20語には文字装飾を施していない。

4 対面で実施したのは、回答者が他の人の見解を参考に回答することがないようにするためである。無記名の調査であるため個人が特定されることは一切ないこと、論文のデータとして使用することを、調査前にあらかじめ伝えた。調査の意図と論文のテーマは伝えていない。なお、本研究では学年による回答内容の差異は扱わない。

5 本研究の調査で問われた発音の知識は一般アメリカ英語に関するものである。

6 英和辞典であるため、大学生が馴染んでいる、文部科学省検定済みの中学校・高等学科英語教科書の新出語に付してある発音記号に近似している。

7 『広辞苑』が収録していない調査対象語は「アワード」のみである。カタカナ語が英語由来であるかどうかの判断は『広辞苑』の記述にしたがった。

8 これら50のカタカナ語を見聞きしたことがない学生はいないことを、調査用紙配付前に確認した。

表1 調査対象のカタカナ語・選択肢・選択肢作成の意図

	カタカナ英語	1つの正答の選択肢（太字）＋3つの不正答選択肢	不正答選択肢作成の意図
1	アシスタント	/ə'fɪstənt/ /ə'sɪstənt/ /ə'θɪstənt/ /ə'sɪstænt/	「シ」の子音が原音では/s/に当たること、「タ」の母音が実音では曖昧母音であることを認識しているか
2	アクティブ	/'æktɪv/ /'æktɪb/ /'ækti:v/ /'ækti:b/	「ブ」に当たる原音が/v/であること、「ティ」の母音が原音では長母音ではないことを認識しているか
3	アウェーゲーム（本拠地以外での試合） <sup>9</sup>	/əweɪ'geɪm/ /əwe:'ge:m/ /ɑ:weɪ'geɪm/ /ɑ:weɪ'ge:m/	二つの引く音「ー」に当たる原音が共に二重母音であることを認識しているか
4	インストール	/ɪn'stoul/ /ɪn'stɔ:l/ /ɪn'staul/ /ɪn'stu:l/	引く音「ー」に当たる原音が長母音/o:/であることを認識しているか
5	インフォメーション	/ɪnfər'meɪʃən/ /ɪnfɔ:r'meɪʃən/ /ɪnfər'me:ʃən/ /ɪnfɔ:r'me:ʃən/	「ー」に当たる原音が二重母音であること、「フォ」に当たる原音が弱母音であることを認識しているか
6	インスタント	/'ɪnstənt/ /'ɪnstənt/ /'ɪnstɑ:nt/ /'i:nstənt/	「タ」の母音が原音では弱母音であることと、「イ」が短母音であることを認識しているか
7	ウェーブ <sup>10</sup>	/weɪv/ /wev/ /web/ /weɪb/	「ー」に当たる原音が二重母音であること、「ブ」に対する原音は/b/ではなく/v/であることを認識しているか
8	ウィンドー	/'wɪndou/ /'wɪndo:/ /'uɪndou/ /'uɪndo:/	「ウ」に対する原音が/w/であること、「ー」に対する原音が二重母音であることを認識しているか
9	ウェブページ	/'web peɪdʒ/ /'wev peɪdʒ/ /'web pe:dʒ/ /'weɪv pe:dʒ/	「ブ」が原音の/b/に当たることと、「ー」が二重母音に当たっていることを認識しているか
10	エラー	/'erər/ /'e:rər/ /'elər/ /'e:lər/	「エ」に当たる原音が短母音であること、「ラ」の子音が/l/ではなく/r/であることを認識しているか

9 『広辞苑』では、外来語の複合語の第1要素と第2要素の間に区切りを示す記号を付しているが（例：ウェブ・ページ）、本研究の調査票では省いた。

10 『明鏡国語辞典 第三版』（以下『明鏡国語辞典』）と『精選版 日本国語大辞典』では、「ウェーブ」が見出し語となっている。

11	エレガント	<i>/ˈelɪɡənt/ /ˈeləɡənt/ /ɪˈlegənt/ /ɪˈleɪɡənt/</i>	カタカナ英語とは異なる, 原音のアクセント位置と, 「レ」に当たる原音の母音が弱母音であることを認識しているか
12	エジソン	<i>/ˈeɪzən/ /ˈedʒɪsən/ /ˈeɪzən/ /ˈedɪsən/</i>	「ジ」に当たる原音は/d/であることを認識しているか
13	オフィス	<i>/ˈɔːfɪs/ /ˈɔːfɪːs/ /ˈoufɪs/ /ˈoufɪːs/</i>	「オ」に当たる原音が二重母音ではないこと, 「ィ」に当たる原音の母音が短母音であることを認識しているか
14	オーダー	<i>/ˈourdəɪr/ /ˈoudɑːr/ /ˈɔːrdəɪr/ /ˈɔːrdɑːr/</i>	一つ目の「ー」に当たる部分が原音では二重母音ではないこと, 二つ目の「ー」の部分が原音では弱音節となることを認識しているか
15	オイスター	<i>/ˈɔɪstər/ /ˈɔɪstɑːr/ /ˈɔːɪstər/ /ˈɔːɪstɑːr/</i>	「ー」の部分が原音では弱音節となること, 「オ」に当たる原音が短母音であることを認識しているか
16	アワード (賞)	<i>/əˈwɔːrd/ /ˈæwɑːrd/ /əˈwaːrd/ /ˈæwərd/</i>	原音のアクセント位置は第2音節であること, 原音の初めの母音は曖昧母音であること, 「ワー」に当たる原音が/wɔː/であることを認識しているか
17	アップロード	<i>/ˈʌplɔːd/ /ˈʌproud/ /ˈʌprɔːd/ /ˈʌploud/</i>	「ロ」に当たる原音の子音が/l/であること, 「ー」に当たる母音が二重母音であることを認識しているか
18	アスリート	<i>/æsˈliːt/ /ˈæθliːt/ /ˈæslɪt/ /æθˈlɪt/</i>	「ス」の子音に当たる原音が/s/ではなく/θ/であること, 「ー」の母音が長母音であること, 原音のアクセントが第2音節であることを認識しているか
19	アーカイブ	<i>/ˈɑːrkaɪv/ /ˈɑːrkaɪb/ /ˈəːrkaɪv/ /ˈəːrkaɪb/</i>	「アー」に当たる原音が/ɑː/であること, 「ブ」が/v/であること, 原音のアクセントが第1音節にあることを認識しているか
20	イメージ	<i>/ˈɪmiːdʒ/ /ˈɪmeɪdʒ/ /ɪˈmeɪz/ /ˈɪmɪdʒ/</i>	原音の二つ目の母音が短母音であること, 「ジ」に当たる子音が/z/ではなく/dʒ/であることを認識しているか

21	インナー	<i>/ˈɪnər/ /ˈɪŋnər/ /ˈɪŋər/ /ˈɪnəːr/</i>	「ンナ」に当たる原音が/n/であること、「ー」が原音では長母音でないことを認識しているか
22	イベント	<i>/ɪˈbent/ /ˈiːvent/ /ɪˈvent/ /iːˈbent/</i>	原音では第2音節にアクセントがあること、「ベ」の子音の原音が/v/であることを認識しているか
23	イージー (楽 な)	<i>/iːʒi/ /ˈiːzi/ /iːdziː/ /iːdʒi/</i>	「ジ」の子音が原音では/z/であること、二つ目の「ー」が短母音であることを認識しているか
24	ウェスト (胴 囲) <sup>11</sup>	<i>/ueɪst/ /west/ /weɪst/ /uest/</i>	原音では語頭が半母音であること、「エ」に当たる原音は二重母音/eɪ/であることを認識しているか。west (西) のカタカナ表記と混同していないか
25	ウルトラ	<i>/ˈultrə/ /ˈuːltrə/ /ˈɑːltrə/ /ˈɒltrə/</i>	「ウ」が原音では、「ウ」に近い/u/ではなく/ʌ/であることを認識しているか
26	ウエザー ニュース	<i>/ˈwezər njuːz/ /ˈweðər njuːz/ /ˈweðər njuːs/ /ˈwezər njuːs/</i>	「ス」に当たる原音が/s/ではなく/z/であること、「ザ」の子音が原音では/z/ではなく/ð/であることを認識しているか
27	ウォーターフ ロント	<i>/ˈwɑːtər fraːnt/ /ˈwɔːtər frʌnt/ /ˈwɔːtər fraːnt/ /ˈwɔːtər frɒːnt/</i>	「ロ」に当たる音節の母音が原音では/o/や/a/ではなく/ʌ/であることを認識しているか
28	エスニック	<i>/ˈeθnɪk/ /ˈesnɪk/ /ˈeθniːk/ /ˈesniːk/</i>	「ス」に当たる子音の原音が/s/ではなく/θ/であること、原音のアクセントは第1音節にあること、「ニック」に当たる原音の母音が長母音ではないことを認識しているか
29	エアブレーキ	<i>/ˈeəbriːki/ /ˈeəbreɪk/ /ˈeəbreɪki/ /ˈeəbreːk/</i>	「ブレーキ」の「ー」に当たる原音が二重母音であることと、「キ」に当たる原音は子音の/k/であることを認識しているか
30	エキサイティ ング	<i>/ɪkˈsaɪtɪŋ/ /ɪkɪˈsaɪtɪŋ/ /ekɪˈsaɪtɪŋ/ /ekˈsaɪtɪŋ/</i>	「エ」に当たる原音が/i/であること、「キ」に当たる原音は/ki/ではなく/k/であることを認識しているか

11 『明鏡国語辞典』と『精選版 日本国語大辞典』は「ウエスト」を見出し語としている。

31	エプロン	/ˈeprən/ /ˈeɪprən/ /ˈeəprən/ /ˈeprɑːn/	原音では第1音節が二重母音であること、第2音節が弱音節であること、第1音節にアクセントがあることを認識しているか
32	オフシーズン	/ɔːfˈʃiːzn/ /ɔːfˈsiːzn/ /ɔːfˈsiːðn/ /ɔːfˈʃiːðn/	「シ」に当たる原音が/s/であること、「ズ」に当たる原音が/z/であることを認識しているか
33	オートマチック	/ɔːtəˈmætʃɪk/ /ɔːtəˈmætɪk/ /outəˈmætɪk/ /outəˈmætʃɪk/	「チ」に当たる原音が/tʃi/ではなく/tɪ/であること、「オー」が二重母音ではないことを認識しているか
34	オリーブ	/ˈɑːlɪv/ /ˈoʊlɪb/ /ˈoʊliːv/ /ˈɑːliːb/	原音ではアクセントは第1音節にあること、「オ」に当たる原音は二重母音ではないこと、「ブ」に当たる原音は/v/であることを認識しているか
35	オーバーコート (衣料)	/ˈɔːvər kɔːt/ /ˈoʊvər kout/ /ˈoʊvər kɔːt/ /ˈɔːvər kout/	「オーバー」も「コート」も、引く音「ー」に当たる音は、原音では二重母音であることを認識しているか
36	アイロン	/ˈaɪrən/ /ˈaɪərən/ /ˈaɪrɑːn/ /ˈaɪrɔːn/	英語の綴りから音を予想したカタカナ英語とは別に、原音を認識しているか。「ロン」に当たる部分が弱音節であることを認識しているか
37	アイブロー (眉毛)	/ˈaɪblou/ /ˈaɪbrau/ /ˈaɪbrɔː/ /ˈaɪbloː/	「ブロー」に当たる、原音の/brau/を認識しているか。「ロー」の子音が/r/であることを認識しているか
38	アボカド	/ævəˈkɑːdou/ /ævəˈkædou/ /ævəˈkɑːd/ /ɑːvəˈkɑːd/	「ブ」の子音が/b/ではなく/v/であること、「カ」の母音が長音であること、「ド」の母音が二重母音であることを認識しているか
39	イコール	/ˈiːkwəl/ /ɪˈkɔːl/ /ˈiːkwɔːl/ /ɪˈkwɔːl/	原音では、「イ」が長母音であること、「コール」の「ー」に当たる部分が原音では長母音ではないこと、原音とカタカナ語ではアクセントの位置が異なることを認識しているか
40	イニシアチブ	/ɪˈnɪʃətrɪb/ /ɪˈnɪʃətɪv/ /ɪˈnɪʃətʃɪv/ /ɪˈnɪʃətʃiːb/	原音ではアクセントは第2音節にあること、「チ」が/tɪ/であること、「ブ」が/v/であることを認識しているか
41	イヤホン	/ˈɪərfaʊn/ /ˈɪərhaʊn/ /ˈɪərʃən/ /ˈɪərʃɔːn/	「ホ」の子音が原音では/h/ではなく/f/であること、「ホ」の母音が二重母音であることを認識しているか

42	ウーマン	/ˈwu:mən/ /ˈu:mən/ /ˈwʊmən/ /ˈu:əmən/	カタカナでは表せない、原音の第1音節の/w/を認識しているか、「マ」の母音が弱母音であることを認識しているか
43	ウッドデッキ	/ˈuəd deki/ /ˈwʊd dek/ /ˈu:d dek/ /ˈwud deki/	「ウ」が原音では半母音/w/であること、「キ」が/ki/ではなく/k/であることを認識しているか
44	ウール	/wu:l/ /wʊl/ /u:l/ /u:əl/	「ウ」は原音では半母音/w/で始まっていること、「ー」は原音では短母音であることを認識しているか
45	エキシビジョン	/eksəˈbɪʃən/ /ekɪʃiˈbɪʃən/ /ekɪsəˈbɪʃən/ /ekʃiˈbɪʃən/	原音では「キ」が/ki/ではなく/k/であること、「シ」が/ʃi/ではなく/sə/であることを認識しているか
46	エキゾチック	/ekɪzəˈtʃɪk/ /ekɪˈzɔ:tɪk/ /ɪgˈzɑ:tɪk/ /ɪgzəˈtʃɪk/	「キ」が/ki/ではなく/k/であること、「チ」が/tʃi/ではなく/tɪ/であること、アクセントが原音では第2音節に置かれることを認識しているか
47	エール(声援)	/eɪl/ /e:l/ /jeɪl/ /jel/	「エ」に当たる母音が原音では半母音+短母音 /je/であること、「ー」に当たる部分が長母音ではないことを認識しているか
48	オープン	/ouvɪn/ /ʌvɪn/ /oubɪn/ /ɑ:vɪn/	原音では「オ」が「オ」に近い/ou/ではなく/ʌ/であること、「ブ」の子音が/v/であることを認識しているか
49	オアシス	/ouˈeɪsɪs/ /ouˈaɪsɪs/ /ˈouəsi:s/ /ˈouəsɪs/	原音のアクセントは第2音節にあること、「ア」に当たる原音が/eɪ/であることを認識しているか
50	オニオン	/ˈʌnjən/ /ˈɔ:nɪən/ /ˈɑ:njən/ /ˈæɪnən/	第1音節の母音が「オ」に近い/ɔ/ではなく/ʌ/であること、「ニ」が原音では/njə/であることを認識しているか

## 4. 結果と考察

### 4.1. 仮説の検証

正答率順に並べた、本研究の調査の結果を表2に示す。表1と同じく、太字のカタカナ英語は開き度「小」のもの、網かけのカタカナ英語は開き度「大」のもの、太字でも網掛けでもないものは「中」のカタカナ英語である。各発音表記は選択率の高い順に並べた。



表2 正答となる原音表記の選択率

正答 順位	問題 番号	カタカナ英語	正答率	各発音表記の選択率（太字が正答）（n=50）
1	7	ウェーブ	74%	/weɪv/ <b>74%</b> ; /weɪb/ 20%; /wev/ 6%; /web/ 0%
2	11	エレガント	64%	/ˈeləɡənt/ <b>64%</b> ; /ɪˈlegənt/ 24%; /ˈeleɪɡənt/ 6%; /ɪˈleɪɡənt/ 6%
3	1	アシスタント	56%	/əˈsɪstənt/ <b>56%</b> ; /əˈsɪstənt/ 36%; /əˈθɪstənt/ 8%; /əˈfɪstənt/ 0%
4	8	ウィンドー	48%	/ˈwɪndəʊ/ <b>48%</b> ; /ˈwɪndɔː/ 34%; /ˈuɪndəʊ/ 12%; /ˈuɪndɔː/ 6%
5	22	イベント	46%	/ɪˈvent/ <b>46%</b> ; /iːˈvent/ 42%; /ɪˈbent/ 8%; /iːˈbent/ 4%
5	9	ウェブページ	46%	/ˈweb peɪdʒ/ <b>46%</b> ; /ˈwev peɪdʒ/ 34%; /ˈweɪb peːdʒ/ 18%; /ˈweɪv peːdʒ/ 2%
7	2	アクティブ	44%	/ˈæktiːv/ 48%; /ˈæktɪv/ <b>44%</b> ; /ˈæktiːb/ 8%; /ˈæktɪb/ 0%
7	24	ウェスト	44%	/weɪst/ <b>44%</b> ; /uest/ 32%; /west/ 14%; /ueɪst/ 10%
9	18	アスリート	42%	/ˈæθliːt/ <b>42%</b> ; /æsˈliːt/ 32%; /æθˈlɪt/ 14%; /ˈæslɪt/ 12%
9	32	オフシーズン	42%	/ɔːf ˈsiːzn/ <b>42%</b> ; /ɔːf ˈsiːðn/ 24%; /ɔːf ˈfiːzn/ 18%; /ɔːf ˈfiːðn/ 16%
9	40	イニシアチブ	42%	/ɪˈnɪʃətɪv/ <b>42%</b> ; /ɪˈnɪʃətɪv/ 24%; /ɪˈnɪʃətɪːb/ 20%; /ɪˈnɪʃətɪb/ 14%
12	35	オーバーコート	40%	/ˈouvər kout/ <b>40%</b> ; /ˈouvər kɔːt/ 26%; /ˈɔːvər kɔːt/ 18%; /ˈɔːvər kout/ 16%
13	43	ウッドデッキ	36%	/ˈwud dek/ <b>36%</b> ; /ˈwud deki/ 30%; /ˈuːd dek/ 30%; /ˈuəd deki/ 4%
14	10	エラー	34%	/ˈerər/ <b>34%</b> ; /ˈeːrər/ 26%; /ˈelər/ 24%; /ˈeːlər/ 16%
14	13	オフィス	34%	/ˈɔːfɪs/ <b>34%</b> ; /ˈɔːfɪs/ 34%; /ˈoufɪːs/ 20%; /ˈoufɪs/ 12%
16	5	インフォメーション	32%	/ɪnfɔːrˈmeɪʃən/ 46%; /ɪnfərˈmeɪʃən/ <b>32%</b> ; /ɪnfərˈmeːʃən/ 16%; /ɪnfərˈmeːʃən/ 6%
16	12	エアブレーキ	32%	/ˈeəbreːk/ 46%; /ˈeəbreɪk/ <b>32%</b> ; /ˈeəbreɪki/ 16%; /ˈeəbrɪːki/ 6%
16	37	アイブロー	32%	/ˈaɪbləʊ/ 38%; /ˈaɪbraʊ/ <b>32%</b> ; /ˈaɪblɔː/ 20%; /ˈaɪbrɔː/ 10%

16	41	イヤホン	32%	/ˈiərfaʊn/ 32%; /ˈiərfən/ 28%; /ˈiərhoun/ 24%; /ˈiərhɔːn/ 16%
16	42	ウーマン	32%	/ˈwuːmən/ 34%; /ˈwʊmən/ 32%; /ˈuːəməɪn/ 22%; /ˈuːmən/ 12%
21	14	オーダー	30%	/ˈɔːrdər/ 30%; /ˈourdəɪ/ 26%; /ˈoudaːr/ 26%; /ˈɔːrdaːr/ 18%
21	23	イージー	30%	/ˈiːzi/ 30%; /ˈiːdʒi/ 26%; /ˈiːzi/ 24%; /ˈiːdzi/ 18%
23	17	アップロード	28%	/ˈʌproud/ 32%; /ˈʌploud/ 28%; /ˈʌprɔːd/ 22%; /ˈʌplɔːd/ 18%
24	19	アーカイブ	26%	/ˈɑːrkaɪv/ 46%; /ˈɑːrkaɪv/ 26%; /ˈɑːrkaɪb/ 14%; /ˈɑːrkaɪb/ 14%
24	30	エキサイティング	26%	/ɪkɪˈsaɪtɪŋ/ 36%; /ekˈsaɪtɪŋ/ 32%; /ɪkˈsaɪtɪŋ/ 26%; /ekɪˈsaɪtɪŋ/ 26%
26	3	アウェーゲーム	24%	/ɑːweɪˈgeɪm/ 32%; /əweɪˈgeɪm/ 26%; /əweɪˈgeɪm/ 24%; /ɑːweɪˈgeɪm/ 18%
26	4	インストール	24%	/mˈstaʊl/ 32%; /mˈstoul/ 26%; /mˈstɔːl/ 24%; /mˈstuːl/ 18%
26	6	インスタント	24%	/ˈɪnstənt/ 52%; /ˈɪnstənt/ 24%; /ˈɪnstɑːnt/ 20%; /ˈiːnstənt/ 4%
26	33	オートマチック	24%	/outəˈmætɪk/ 56%; /ɔːtəˈmætɪk/ 24%; /ɔːtəˈmætʃɪk/ 12%; /outəˈmætʃɪk/ 8%
30	15	オイスター	22%	/ˈɔɪstɑːr/ 50%; /ˈɔɪstər/ 22%; /ˈɔːɪstər/ 22%; /ˈɔːɪstɑːr/ 6%
30	16	アワード	22%	/ˈæwɑːrd/ 38%; /əˈwɑːrd/ 30%; /əˈwɔːrd/ 22%; /ˈæwərd/ 10%
30	20	イメージ	22%	/ˈɪmeɪdʒ/ 42%; /ˈɪmiːdʒ/ 24%; /ˈɪmɪdʒ/ 22%; /ɪˈmeɪʒ/ 12%
30	27	ウォーターフロント	22%	/ˈwɔːtər frɔːnt/ 44%; /ˈwɔːtər frʌnt/ 22%; /ˈwɑːtər frʌnt/ 22%; /ˈwɔːtər frʌnt/ 12%
30	28	エスニック	22%	/ˈeθnɪk/ 38%; /ˈesniːk/ 26%; /ˈeθnɪk/ 22%; /ˈesnik/ 14%
30	36	アイロン	22%	/ˈaɪrən/ 34%; /ˈaɪrɔːn/ 24%; /ˈaɪərɪn/ 22%; /ˈaɪrɑːn/ 20%
30	46	エキゾチック	22%	/ekɪˈzɔːtɪk/ 46%; /ɪgˈzɔːtɪk/ 22%; /ekɪzəˈtʃɪk/ 18%; /ɪgzəˈtʃɪk/ 14%
37	12	エジソン	18%	/ˈedʒɪsən/ 54%; /ˈedɪsən/ 18%; /ˈeɪzɪsən/ 14%; /ˈeɪʒɪsən/ 14%

37	39	イコール	18%	/i:kwɔ:l/ 32%; /i'kwɔ:l/ 28%; /i'kɔ:l/ 22%; <b>/i:kwəl/ 18%</b>
39	26	ウェザーニュース	16%	/wɛðər nju:s/ 42%; /wɛzər nju:s/ 26%; /wɛzər nju:z/ 16%; <b>/wɛðər nju:z/ 16%</b>
39	31	エプロン	16%	/'ɛprən/ 32%; /'ɛəprən/ 32%; /'ɛpra:n/ 20%; <b>/'ɛprən/ 16%</b>
39	50	オニオン	16%	/'ɔ:nɪən/ 36%; /'æniən/ 28%; /'ɑ:njən/ 20%; <b>/ʌnjən/ 16%</b>
42	21	インナー	12%	/'ɪnnə:r/ 48%; /'ɪnər/ 26%; /'ɪŋər/ 14%; <b>/ɪnər/ 12%</b>
42	34	オリーブ	12%	/'ouli:v/ 52%; /'ɑ:li:b/ 24%; /'ɑ:lɪv/ 12%; /'oulib/ 12%
42	44	ウール	12%	/wu:l/ 44%; /u:əl/ 28%; /u:l/ 16%; <b>/wul/ 12%</b>
42	49	オアシス	12%	/ou'aɪsɪs/ 40%; /'ouəɪsɪs/ 28%; /'ouəsi:s/ 20%; <b>/ou'eɪsɪs/ 12%</b>
46	48	オープン	10%	/ouvɪn/ 36%; /ɑ:vɪn/ 36%; /oubɪn/ 18%; <b>/ʌvɪn/ 10%</b>
47	25	ウルトラ	8%	/'ultrə/ 44%; /'u:ltrə/ 44%; /'ʌltrə/ 8%; /'ɑ:ltrə/ 4%
47	45	エキシビション	8%	/ekʃɪ'biʃən/ 44%; /ekʃɪ'biʃən/ 30%; /ekɪsə'biʃən/ 18%; <b>/eksə'biʃən/ 8%</b>
49	38	アボカド	6%	/ævə'kɑ:d/ 48%; /ævə'kædou/ 26%; /ɑ:və'kɑ:d/ 20%; <b>/ævə'kɑ:dou/ 6%</b>
49	47	エール	6%	/e:l/ 46%; /eɪl/ 36%; /jeɪl/ 12%; <b>/jel/ 6%</b>

最も原音の選択率が高かった語は「ウェーブ」(74%), 最も低かったのは「エール」(6%)で、平均正答率は28.24%である。第2節で示した仮説が妥当であれば、上位15語には開き度「小」の語が集まり、下位15語には開き度「大」の語が集まることになる。

しかしながら、表2の上位15語の中には、開き度「大」とした「イニシアチブ」と、「中」とした「イベント」「ウエスト」「オーバーコート」「ウッドデッキ」が入っている。また、下位15語の中には、「小」とした「エジソン」と、「中」とした「ウェザーニュース」「インナー」が入っている。さらに、開き度「大」とした「アイブロー」「イヤホン」は16位で「中」位、開き度「小」とした「アウェーゲーム」「インストール」「インスタント」は26位で「中」位、「小」の「オイスター」は31位で「中」位となっている。以上の結果から、仮説は支持されないことがわかる。

## 4.2. 考察

本研究で立てた、カタカナ英語と原音との開き度と英語学習者の原音認識度は相関関係にあるという仮説はこのように棄却されるものの、表2で示した調査結果からは多くのことが読み取れる。本節では、正答の発音記号よりも不正答となる発音記号の選択率が高い33語のうち、不正答選択の理由を探ることが現時点では不可能な、「アクティブ」「アウェーゲーム」「インストール」「インフォメーション」「インスタント」「エスニック」「オートマチック」<sup>12</sup>を除いた26語について、正答の発音記号が選ばれなかった理由を考える。

### 4.2.1. エアブレーキ, エキサイティング, エキシビション, エキゾチック

これら4語に共通する、カタカナ表記と原音との大きな違いは、原音では/k/であるところを、母音を添加して「キ」と表記していることである。そのため、調査回答者は、「エキサイティング (exciting)」「エキゾチック (exotic)」「エキシビション (exhibition)」については、「キ」= /kɪ/と認識したと考えられる。この理屈で考えると、「エアブレーキ (airbrake)」についても、「キ」= /kɪ/の認識が働きそうだが、この語については回答者の多数が「キ」= /k/であることを認識しているのがわかる<sup>13</sup>。同類のカタカナ英語である「エキストラ (extra)」「ケーキ (cake)」「ステーキ (steak)」「タキシード (tuxedo)」「テキストブック (textbook)」「ミキサー (mixer)」「メキシコ (Mexico)」についても調査すれば、「キ」= /kɪ/と認識する回答者の割合はどの程度になるのだろうか。

### 4.2.2. アイブロー, アワード, ウォーターフロント, アイロン, イコール, オニオン, オアシス, オーブン, ウルトラ

「ウォーターフロント (waterfront)」の「ロ」の母音、「オニオン (onion)」の「オ」、「オーブン (oven)」の引く音「ー」、「ウルトラ (ultra)」の「ウ」にあたる原音が /ʌ/ であることの認識度が低い。いずれのカタカナ語も元となる英語の綴りから音を予想して形成されたと考えられ、原音の発音とかけ離れている<sup>14</sup>。回答者はその影響を受けているのではないか。このことは、「アイブロー (eyebrow)」「アワード (award)」「アイロン (iron)」「イコール (equal)」「オアシス (oasis)」にも当てはまるのではないか。いずれの語も、実際の発音にもとづいてカタカナ英語化されたとは考えにくい。

12 たとえば、「インフォメーション」では、正答の /ɪnfəˈmeɪʃən/ よりも第2音節が長母音化されている /ɪnfɔːrˈmeɪʃən/ の選択率が高い理由が説明できない。

13 「ウッドデッキ (wood deck)」についても同様。

14 同じく /ʌ/ を含む glove には、綴り字のローマ字風読みの「グローブ」と実音風読みの「グラブ」の2とおりの表記がある。

#### 4.2.3. アップロード, アーカイブ

「アップロード (upload)」の「ロ」は /l/ と /r/ の別を, 「ー」は長母音と二重母音の別を表記できない。さらに「アーカイブ」の「ア」は /ɑ:/ と /a:/ の区別ができない。このことが正答率の低さにつながっていると考えられる。ただ, 「アーカイブ (archive)」の語尾が「ブ」で表記されているにもかかわらず, /v/ であることを, 回答者の4分の3近くが把握していることは興味深い。

#### 4.2.4. ウーマン, オイスター, イメージ, オリーブ, ウール, アボカド, エール

「ウーマン (woman)」 「オイスター (oyster)」 「イメージ (image)」 「オリーブ (olive)」 「ウール (wool)」 「エール (yell)」 とともに, 原音の母音は短母音であるのに, カタカナ語になると長音化され, 引く音「ー」で表記される。その反対に「アボカド (avocado)」の「カ」の母音は, 原音では長母音であるところを, カタカナ語になると短母音化されている。調査回答者の多くはこの実音とカタカナ語の差異を認識しなかったと考えられる。「エール」の原音については, 語頭の半母音 /j/ はカタカナでの表記には含まれていないため<sup>15</sup>, /e:l/ あるいは /eɪl/ を選んだ回答者が82%となったのだろう。

#### 4.2.5. インナー

元の英語の綴りは inner であるため, 綴りから音を予想してカタカナ語化している。「インナー」という表記と発音が定着しているため, 回答者は原音もそれに近いと判断したと考えられる。-nn- が「ンナ」と表記されている語は, ア行音以外で始まる語ではあるが, 「シンナー (thinner)」 「トンネル (tunnel)」 「ハンマー (hammer)」 「プランナー (planner)」 「フランネル (flannel)」 「ランニング (running)」 などがある<sup>16</sup>。これらの語も本研究の調査に含めたとしたら, 原音認識度が低いことが予想できる。

#### 4.2.6. ウェザーニュース

「ニュース」という発音と表記が定着しているため, 原音の語尾が無声音の /s/ ではなく /z/ であることを認識していない回答者が半数を超えたと考えられる<sup>17</sup>。「ロールスロイス

15 米国の Yale University は、『広辞苑』および『精選版 日本国語大辞典』で, 「エール大学」とも「イエール大学」とも表記され, 後者の表記では, 原音の /j/ が「イ」に置き換えられている。このことから考えると, 本調査の対象語の「エール」も「イエール」と記すことが可能はずだ。

16 ではすべての -nn- 型カタカナ英語がそうであるかという点, 野球用語の inning は「インニング」ではなく「イニング」である。日本でも2014年に大ヒットした映画の『アナと雪の女王』(原題は Frozen) の主要登場人物である Princess Anna of Arendelle は「アンナ」ではなく「アナ」である。一般の外来語としては「チャンネル」表記が一般的だが, IT の分野では原音に近い「チャネル」が好まれている。

(Rolls Royce)」や「ピクルス (pickles)」の「ス」も原音では/z/のため、もし今回の調査にこの2語を含めたとしたら、同様の結果となることが予想できる<sup>18</sup>。回答者の42%が「ウェザー」の「ザ」を原音の/ð/ではなく/z/と認識していることも、日本語には/ð/を表すカタカナがないことと関連があるだろう。

#### 4.2.7. エアブレーキ, エプロン

「エアブレーキ (airbrake)」では「ー」, 「エプロン (apron)」では「エ」に当たる原音は二重母音の/eɪ/であることの認識率が低いことがわかる。原音の/ˈeɪprən/, /ˈeəbreɪk/に近づけた「エイプロン」「エアブレイク」であれば、回答者は迷わずに原音表記の選択肢を選んだのではないだろうか。

二重母音/eɪ/を単母音として表記するか、原音に近づけて二重母音風に表記するかについての絶対的な基準はないように見える。ア行音で始まる語ではないが、たとえばmaid (/meɪd/) について、『明鏡国語辞典』では「メイド」, 『広辞苑』では「メード」を見出しに挙げている。同一辞典が二つの表記を認めていることもある。『精選版 日本国語大辞典』はbaby (/ˈbeɪbi/) については「ベビー」を見出しとしつつ、「ベイビー」も認めている。native (/ˈneɪtɪv/) について『広辞苑』は、「ネイティブ」を見出しとし「ネーティブ」とも記すとしている。『精選版 日本国語大辞典』はその逆で、「ネーティブ」が見出しで、「ネイティブ」も認めている。

このように、原音が二重母音/eɪ/を含むカタカナ語について複数の表記が認められる場合があるが、「エイプロン」「エアブレイク」という表記は、少なくとも筆者が参照した日本語辞典には載っていない。

#### 4.2.8. エジソン

「ジ」を/d/と正しく認識した回答者は18%であった。原音の/d/が「ジ」とカタカナ表記されているため、それに近い英語音の/dʒ/を含む/ˈedʒɪsən/の選択率が50%を超えたと捉えることができる。類例の、ア行音から始まる「アラジン (Aladdin)」と「エジンバラ (Edinburgh)」, ア行音で始まる語ではないが、「クレジット (credit)」 「ジレンマ (dilemma)」 「スタジアム (stadium)」 「スタジオ (studio)」 「ラジオ (radio)」 などでも、日本人英語

17 日本の民間気象情報会社は『ウェザーニュース』, NEWSWEEK の日本語版は『ニューズウィーク』である。

18 プロ野球球団の「西武ライオンズ」「ヤクルトスワローズ」は元となる英語の lions と swallows の語末の子音 /z/ に近い「ズ」を使っている。それに対して「阪神タイガース」は元となる英語の tigers の語末は /z/ であるのに、「ス」を使っている。

学習者の多くは /d/ ではなく /dʒ/ を含む表記を、原音として選択するのではないだろうか<sup>19</sup>。

## 5. おわりに

本研究は、日本語を母語とする大学生 50 名を対象とする調査の結果にもとづき、カタカナ英語の知識と、元となった英語の発音の認識の程度にどのような関係があるのかを考察した。その結果、カタカナ英語と原音との音韻的差の大小と英語学習者の原音認識度の大小とに明白な相関関係がないことと、カタカナ英語の原音の日本語母語話者の認識度が全体的に低いことが明らかになった。しかし、本稿で示したデータは小規模の調査に基づくものであるため、今後の研究では、より多くの英語学習者を対象とし、ア行音以外で始まるものも含めたカタカナ英語についての原音認識度を調べることによって、本研究と同様の結果が出るかどうかを確かめる必要がある。また、原音との開き度が大きいカタカナ英語を原音に近く表記することで日本人英語学習者の原音認識度が高まるかどうか、を確かめることも課題として挙げられる<sup>20</sup>。

## 引用文献

### 論文

- 森光有子・中島寛子. 2006. 「小学校英語教育を考える—児童英語教育におけるカタカナ語の影響に焦点を当てて—」『相愛大学研究論集』22, 69-91.
- 森光有子・中島寛子. 2008. 「日本に溢れるカタカナ語とその影響—大学生のカタカナ語の認識と英語学習—」『相愛大学研究論集』24, 67-97.
- Yogi, Minako. 2001. "A Note on Junior High School English Textbooks with Special Reference to the Vocabularies Corresponding to English Loanwords" 『琉球大学教育学部紀要』58, 109-132.

19 『広辞苑』は「アラディン」「エディソン」「エディンバラ」「ディレンマ」の表記も載せている。

20 原音に近くカタカナ表記するには限界があり、/æ/ と /ʌ/、/s/ と /θ/、/l/ と /r/ 等の区別は表せず、アクセントの位置も示せないが、たとえば本研究で取り上げた語であれば、「アワード」を「アウォード」、「インナー」を「イナー」、「エキゾチック」を「エクゾティック」のように、その他の語であれば、「キャベツ (cabbage)」を「キャビジ」、「ラグジュアリー (luxury)」を「ラクシャリー」のように原音に近く表記することが可能である。『広辞苑』は、注 19 で示した語に加え、salad に対するカタカナ語として、原音により近い「サラダ」という表記も載せている (p. 1199)。

## 辞典

北原保雄（編）．2020．『明鏡国語辞典 第三版』大修館書店．

小学館国語辞典編集部（編）．2006．『精選版 日本国語大辞典』第2巻．小学館．

新村 出（編）．2018．『広辞苑 第七版』岩波書店．

南出康世（編集主幹）．2014．『ジーニアス英和辞典 第5版』大修館書店．